

6年間で経験したALアミロイドーシス80例

【対象】2005年～2011年に診療した 連続80症例

性別：男性49例、女性31例

発症時の平均年齢：60歳

平均観察期間：14.3ヶ月

うち 25例が死亡

臨床上最も症状が重いと判断した臓器を主要沈着臓器とし、治療効果を比較検討する。

主要沈着臓器	移植例	非移植例	合計
心臓アミロイドーシス	12例	23例	35例
腎臓アミロイドーシス	15例	9例	24例
消化管アミロイドーシス	2例	13例	15例
その他(肺、皮膚など)	2例	4例	6例

6年間で経験したALアミロイドーシス80例

- ◆全身性アミロイドーシスの自家末梢血幹細胞移植において、主要沈着臓器別に独自に基準を設け、L-PAM量の前処置量を調整するなどの工夫をすることで良好な成績を得た。
- ◆心臓アミロイドーシス症例の移植予後因子として初診時または移植直前にBNP 1000pg/ml以上、IVST 15mm以上、DcT 150msec以下を満たす症例では移植関連死亡リスクが高く、移植よりMD療法を選択した方が良いと考えられる。
- ◆腎臓アミロイドーシス症例に関しては、移植による死亡例はなく、移植を施行することで早期にアルブミン値の改善を認め、有効であった。
- ◆多発性骨髄腫の合併は予後不良因子となる可能性が示唆された。